

## 令和4年度第2回秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会 議事録

日時：令和4年10月13日（木） 13時30分～

場所：室内 秋田県森林学習交流館（プラザクリプトン）

現地 秋田市太平字八田 太平八田県有林

### 出席者

#### ○秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会委員（五十音順）

- 大和田 朋子（秋田市立広面小学校 校長）
- 加賀谷 均（加賀谷均税理士事務所 税理士）
- 笠井 みち子（秋田県消費者協会 理事）
- 加藤 薫（一般社団法人秋田県造園協会 会長）
- 川越 政美（公募委員）
- 熊谷 嘉隆（公立大学法人国際教養大学 理事・副学長）
- 佐藤 充（NPO法人環境あきた県民フォーラム 理事長）
- 村岡 典子（公募委員）

#### ○県側

- 村上 幸一郎（農林水産部森林技監）
- 清水 譲（農林水産部次長）
- 齋藤 正喜（農林水産部林業木材産業課 再造林推進監）
- 三森 道哉（農林水産部森林整備課長）
- 小林 伸也（総務部税務課長）

#### ◇議題

- （1）秋田県水と緑の森づくり税事業次期計画（素案）について

#### ◇現地視察

- （1）先進的造林技術実践フィールド

## 1 開会

事務局が開会を宣言。

## 2 あいさつ

村上森林技監があいさつ。

## 3 委員会の成立

事務局が委員10名のうち8名の出席により委員会が成立していることを報告。

## 4 会長あいさつ

### 熊谷会長

今年度、第2回目の基金運営委員会となります。

本日は、現地視察も計画されておりますけれども、普段は会議資料を基にご審議いただいておりますが、現地に行くことにより、議論で決めた内容がどのように展開されているのかなど、本委員会の役割を理解する絶好の機会になると考えておりますので、楽しみながら御視察いただければと思います。また、委員の皆様の活発なご意見、ご質問、そしてご提案をいただけますようよろしくお願いいたします。

## 5 議題

### 議題1) 秋田県水と緑の森づくり税事業次期計画(素案)について

事務局から、資料1-1~1-3について説明。

### 熊谷会長

説明ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明に対して、ご意見・ご質問等お願いします。

### 佐藤委員

骨子案では、再生林の取組や、災害リスクの軽減について記載があったと思いますが、なぜ記載が無くなったか、その経緯等についてお教え願います。

### 熊谷会長

事務局いかがですか。

### 事務局(三森課長)

再生林対策は、森林の多面的な機能の発揮という一面もあるわけですが、どちらかという経済林を造成するという一面があります。

また、再造林は、今年度から当面の間は県の一般財源を活用し、その推進に取り組んでいるところであります。

そのため、再造林対策につきましては、今回の5箇年計画からは外したということでございます。

#### **熊谷会長**

よろしいでしょうか。

これまでも議論してきましたが、再造林対策については取り組まないというわけではなく、森づくり税ではない別の財源を活用して対策をするということですので、ご留意いただきたいと思えます。

#### **川越委員**

美しい森づくりが、安全・安心な森づくりに名称が変わった。安全・安心も重要であるが、景観対策も重要であると考えてるので、考え方をお聞かせください。

また、③のナラ枯れ未然防止事業を拡充したとのことであるが、これまでの事業と新しい事業の内容、違いについて教えていただきたい。

それから、新しい事業の実施についてモデルではわかるのですが、実際に現地に入った時の実施方法として、30mの範囲にある木を全て切るのか、それともナラだけを切って他の木は残すのかなど、お聞かせください。

#### **熊谷会長**

事務局いかがですか。

#### **事務局（三森課長）**

1点目の事業名についてであります。この事業ではこれまで、美しい森づくりとしての景観対策という視点に重点を置き実施してきましたが、森林の有する災害防止機能の発揮による安全・安心への対策という1面もありますので、その両面で進めていくという考えであり、新たに取り組むナラ枯れ未然防止事業や、クマ出没抑制等のための緩衝帯整備を含め安全・安心を軸足に置き、事業名を変更したものであります。

#### **事務局（千葉班長）**

2点目以降についてであります。これまでの事業と新しい事業との棲み分けであります。これまでの事業では、枯れた木を処分する単木的な対応であるのに対し、新しい事業では、被害木の周辺にあり、翌年以降に枯れる可能性のあるナラを切って、ナラ枯れを未然に防止するものであり、枯れた木と枯れる可能性のある木の、それぞれに対応できる事業を実施していきたいと考えております。

また、ナラだけを切るのかとの質問ではありますが、現地の状況などからいろんな場合があると思いますが、萌芽更新を阻害する木があれば、そのような木も併せて伐採することも現場条件次第では、考えていかなければと思っております。

#### **熊谷会長**

よろしいでしょうか。

美しい森づくりをしないということではなく、県民の要望等に応じた必要な課題への対応をしていくことで、結果的に美しい森づくりに繋がっていくということになるということかと思えます。

ほかにございませんでしょうか。

#### **加藤委員**

普及啓発になるか環境教育になるかわかりませんが、児童・生徒に対し、単なる植栽だけでなく、植栽から保育、伐採して製材にする流れなど、最終的に自分たちの身の回りにどのように関わっているのか、森林・林業に対する総合的な教育も必要と考えておりますが、いかがでしょうか。

#### **熊谷会長**

事務局どうでしょうか。

#### **事務局（三森課長）**

森林・林業に関する副読本を毎年8,500部作成し、全県の小学4年生に配付しておりますが、その中に川上から川下までの内容が記載されておりますので、そのような活動を通じて森林環境教育を進めていければと考えております。

#### **熊谷会長**

その他、ございませんでしょうか。

#### **加賀谷委員**

ナラ枯れ未然防止事業で、伐採した木を最終的にチップ化するという話がありましたが、収入があった場合はこの事業ではどうするのでしょうか。

#### **熊谷会長**

事務局どうでしょうか。

### 事務局（千葉班長）

切った木を有効活用するという観点から、チップ化するという話をさせていただきましたが、この事業では収入があった場合は、事業の中で相殺することを想定しながら、実施していきたいと考えております。

### 熊谷会長

他にありませんでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、このあと現地視察もありますので、そちらにおいても議論していただきたいと思います。

議題については提案のとおり承認させていただきたいと思います。

### 熊谷会長

それでは、事務局にお返しします。

### 事務局（加賀谷主幹）

熊谷会長、ありがとうございました。

それでは、現地視察に移りますので、忘れ物がないよう、ご移動をお願いいたします。

## 6 現地視察

### 1) 先進的造林技術実践フィールドについて

#### ①車内での説明

- ・事務局から資料2について説明。
- ・9月に現地で行われた自走式下刈り機械の実演状況をDVDで説明。

#### 笠井委員

現地で下刈り機械の実演が行われるようであるが、今後、下刈りは機械化が進んでいくのか。担い手不足の中、機械化が進んでいけば、子供も興味があると感じている。

#### 事務局（虻川主幹）

実演した下刈りの機械化はまだ一般的に普及しているものではないが、下刈りの省力化・省人化は必要であることから、今後進んでいくものと考えている。

#### 笠井委員

林業機械を間近で見える機会はないのか。

#### 事務局（加賀谷主幹）

今年の7月9日に、能代市・道の駅ふたついで森林祭を開催したが、その際に高性能林業機械を3台展示し、実演も実施している。今後も、県民への普及啓発の一環として身近な場所で実施していきたいと考えている。

#### 川越委員

先ほどの次期計画に関連してであるが、マツ枯れ被害はどのようになっているのか。また、対策はどうしているのか。

#### 事務局（加賀谷主幹）

今年度の被害量等の把握はこれからであるが、マツ枯れ被害のピークは平成14年度であり、それから徐々に減っているものの、毎年、被害は確認されている状態である。

対策としては、守るべきマツ林については被害木の駆除から予防対策を実施しており、県民の生活に密着している里山や道路沿いなどでは、森づくり税を活用した景観対策や安全対策としてマツ林・ナラ林等景観向上事業で、枯れたマツの伐採等を実施している。

#### 川越委員

どのような場所が守るべきナラ林なのか。

### 事務局（加賀谷主幹）

市町村が指定することになるが、被害を受けることにより生活に支障が出る森林や、名木・古木等が指定され、国庫補助等の事業を活用して対策を実施している。

### 笠井委員

税事業で実施している事業量はどのような状態か。

また、ナラ枯れ、マツ枯れの被害量はどのくらいあるのか。

### 事務局（加賀谷主幹）

第3期計画期間での事業量は、マツで約 25,000m<sup>3</sup>、ナラで約 24,000m<sup>3</sup> を実施する見込みとなっている。

令和3年度の被害は、マツ枯れで約 7,800m<sup>3</sup>、ナラ枯れで約 11,000m<sup>3</sup> の被害量となっている。

### 村岡委員（女性）

山林を所有しているが再造林したくても誰に頼めば良いのかわからない。県では造林マイスターを育成し再造林を進めているが、どうやって連絡を取れば良いのか。

### 事務局（虻川主幹）

県が育成している造林マイスターの個人情報は公表していないが、マイスターが在籍している林業経営体は連絡先を美の国あきたネットで公開しているので、所有されている山林の近辺の経営体に問い合わせしていただきたい。

なお、経営体の中でも地域の山林の情報は森林組合が一番把握しているので森林組合が良いと考えている。

## ②現地での説明

- ・事務局から資料2のエリア区分等について改めて説明。
- ・コンテナ苗と従来の苗の植栽作業を実施し、省力化を説明。

### 加藤委員

コンテナ苗は根がちゃんと張るのか。また、従来の苗と比較し成長に差が出るのか。

### 事務局（虻川主幹）

実践フィールドには従来の苗とコンテナ苗の両方を植栽している。コンテナ苗は根鉢があるため活着が良い。成長量は従来の苗と比較し同程度かやや優位の場合が多いが、この試験区にはエリートツリー由来のコンテナ苗植栽木があり見た目にも成長が良いのが明らかである。

### 加藤委員

実践フィールドの目指すところは何か。

### 事務局（虻川主幹）

下刈りの労力が大変であることから、成長が早いことをメリットに、下刈り回数を2回程度にできる省力化作業に繋がることを期待している。

### 加藤委員

エリートツリーの利点を教えていただきたい。

### 事務局（虻川主幹）

初期成長が早いこと、花粉が少ないこと、形質が優れていることなどである。上に向かって伸びる成長が早いと雪害を受ける危険性も高くなるので今後注視していく。

### 加藤委員

エリートツリーは、将来、木材として活用する際はどこが違うのか。

### 事務局（虻川主幹）

成長が早いので、若齢で伐採できる可能性があると考えている。

### 加藤委員

エリートツリーは、どのようにして栽培されているのか。



### **事務局（虻川主幹）**

県内各地の造林地において成長が早いなどの優れた性質を持つ木を掛け合わせ、国の認定を受けた品種で、秋田県林業研究研修センターでは候補となる穂木を栽培したり種を採る採種園を整備しているところ。

### **川越委員**

自走式下刈り機は、伐根があっても作業できるのか。

### **事務局 事務局（虻川主幹）**

伐根があれば、下刈り作業は困難である。

### **事務局（加賀谷主幹）**

本日は、活発なご議論や貴重な意見をいただきありがとうございます。

次回の委員会は12月に開催する予定としております。開催日につきましては、後日調整させていただきますので、ご出席をお願いいたします。

### **事務局（加賀谷主幹）**

それでは、以上をもちまして、令和4年度第2回秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会を閉会いたします。

皆様どうもありがとうございました。